

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年8月7日

【四半期会計期間】 第145期第1四半期(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

【会社名】 三菱電機株式会社

【英訳名】 Mitsubishi Electric Corporation

【代表者の役職氏名】 執行役社長 柵山 正樹

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号

【電話番号】 03(3218)2272

【事務連絡者氏名】 経理部会計課長 藤井 裕司

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号

【電話番号】 03(3218)2272

【事務連絡者氏名】 経理部会計課長 藤井 裕司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第144期 第1四半期連結 累計期間	第145期 第1四半期連結 累計期間	第144期
会計期間		自 平成26年4月 1日 至 平成26年6月30日	自 平成27年4月 1日 至 平成27年6月30日	自 平成26年4月 1日 至 平成27年3月31日
売上高	百万円	910,648	988,440	4,323,041
税金等調整前四半期(当期)純利益	"	67,859	67,177	322,968
当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	"	43,021	46,317	234,694
四半期(当期)包括利益	"	40,796	72,926	378,526
株主資本	"	1,545,016	1,872,567	1,842,203
純資産額	"	1,617,300	1,963,112	1,930,167
総資産額	"	3,621,568	3,957,360	4,059,451
基本的1株当たり当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	円	20.04	21.57	109.32
希薄化後1株当たり当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	"	-	-	-
株主資本比率	%	42.7	47.3	45.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	128,610	99,919	378,313
投資活動によるキャッシュ・フロー	"	38,903	39,966	198,163
財務活動によるキャッシュ・フロー	"	8,322	43,676	49,623
現金及び預金等の四半期末(期末)残高	"	497,026	587,488	568,517

(注) 1 当社の連結財務諸表は、米国で一般に認められた企業会計処理の原則及び手続並びに用語、様式及び作成方法に基づいて作成している。

2 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

3 売上高には消費税等は含んでいない。

4 株主資本、株主資本比率は米国会計基準に基づいて表記している。

5 純資産額は、株主資本と非支配持分の合計を記載している。

6 希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため、記載していない。

## 2【事業の内容】

当社は米国会計基準によって四半期連結財務諸表を作成しており、当該四半期連結財務諸表をもとに、関係会社については米国会計基準の定義に基づいて開示している。「第2 事業の状況」においても同様である。

三菱電機グループ（当社を中核として連結子会社176社、持分法適用関連会社37社を中心に構成）においては、重電システム、産業メカトロニクス、情報通信システム、電子デバイス、家庭電器、その他の6セグメントに係る事業を行っており、その製品はあらゆる種類にわたっている。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等、新たに発生した事業等のリスクはない。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の締結、変更、解約等はない。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績

当第1四半期連結累計期間における経営環境は、米国の堅調さや欧州の緩やかな持ち直しが継続したことに加え、日本においても消費税率引上げ影響が一巡し設備投資需要も持ち直しつつある一方で、中国をはじめとする東アジアにおける減速感の継続や、一部新興国における景気後退基調の強まりがみられた。また、為替については、対ドルで前年比円安となった。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は、前年同四半期連結累計期間に対し、重電システム部門、産業メカトロニクス部門、情報通信システム部門、電子デバイス部門及び家庭電器部門の増収により、777億円増収の9,884億円となった。営業利益は、前年同四半期連結累計期間に対し、重電システム部門、家庭電器部門の減益などにより、46億円減益の546億円となった。また、税金等調整前四半期純利益は、前年同四半期連結累計期間比6億円減の671億円、当社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期連結累計期間比32億円増の463億円となった。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりである。

#### 重電システム

社会インフラ事業は、国内の交通事業及び国内・海外の電力事業の増加などにより、受注は前年同四半期連結累計期間を上回ったが、売上は前年同四半期連結累計期間並みとなった。

ビルシステム事業は、国内の昇降機新設事業の減少により、受注は前年同四半期連結累計期間を下回ったが、海外の昇降機新設事業の増加に加え、円安の影響もあり、売上は前年同四半期連結累計期間を上回った。

この結果、部門全体では、売上高は前年同四半期連結累計期間比6%増の2,366億円、営業損益は、売上案件の変動や電力事業の採算悪化などにより、前年同四半期連結累計期間比144億円悪化の66億円の損失となった。

#### 産業メカトロニクス

FAシステム事業は、自動車関連の設備投資及び国内製造業等での設備更新の増加に加え、円安の影響もあり、受注・売上とも前年同四半期連結累計期間を上回った。

自動車機器事業は、北米・欧州等の新車販売市場が好調なことに加え、円安の影響もあり、受注・売上とも前年同四半期連結累計期間を上回った。

この結果、部門全体では、売上高は前年同四半期連結累計期間比11%増の3,283億円、営業利益は、売上増加などにより、前年同四半期連結累計期間比77億円増の428億円となった。

#### 情報通信システム

通信システム事業は、受注は前年同四半期連結累計期間並みとなったが、通信インフラ機器の減少などにより、売上は前年同四半期連結累計期間を下回った。

情報システム・サービス事業は、システムインテグレーション事業等の伸長により、売上は前年同四半期連結累計期間を上回った。

電子システム事業は、宇宙システム事業の大口案件の増加などにより、受注・売上とも前年同四半期連結累計期間を上回った。

この結果、部門全体では、売上高は前年同四半期連結累計期間比3%増の954億円、営業損益は、売上案件の変動などにより、前年同四半期連結累計期間並みの17億円の損失となった。

#### 電子デバイス

電子デバイス事業は、電鉄用・産業用パワー半導体等の需要減少により、受注は前年同四半期連結累計期間を下回ったが、自動車用パワー半導体、通信用光デバイス等の増加に加え、円安の影響もあり、売上は前年同四半期連結累計期間を上回った。

この結果、部門全体では、売上高は前年同四半期連結累計期間比29%増の661億円、営業利益は、売上増加などにより、前年同四半期連結累計期間比84億円増の123億円となった。

#### 家庭電器

家庭電器事業は、国内向け家庭用空調機器の増加に加え、円安の影響もあり、売上高は前年同四半期連結累計期間比8%増の2,540億円、営業利益は、価格低下などにより、前年同四半期連結累計期間比50億円減の162億円となった。

#### その他

資材調達の関係会社での減少などにより、売上高は前年同四半期連結累計期間比3%減の1,631億円、営業利益は、売上減少などにより、前年同四半期連結累計期間比8億円減の9億円となった。

所在地別セグメントの業績は、次のとおりである。

#### 日本

FAシステム事業、自動車機器事業及び電子デバイス事業の増等により、売上高は前年同四半期連結累計期間比4%増の7,583億円となったが、営業利益は、売上案件の変動や電力事業の採算悪化などにより前年同四半期連結累計期間比123億円減の268億円となった。

#### 北米

電力事業及び自動車機器事業の増等により、売上高は前年同四半期連結累計期間比23%増の1,121億円となったが、営業利益は、家庭電器事業の価格低下などにより前年同四半期連結累計期間比11億円減の10億円となった。

#### アジア

ビルシステム事業、自動車機器事業及び空調機器の増等により、売上高は前年同四半期連結累計期間比18%増の2,895億円、営業利益は、前年同四半期連結累計期間比65億円増の290億円となった。

#### 欧州

自動車機器事業の増等により、売上高は前年同四半期連結累計期間比5%増の1,042億円、営業利益は、前年同四半期連結累計期間比6億円増の42億円となった。

#### その他

その他所在地には豪州子会社等が含まれており、売上高は122億円、営業利益は2億円となった。

### (2) キャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間は、営業活動により増加した純キャッシュが999億円となった一方、投資活動に投入した純キャッシュが399億円となったため、フリー・キャッシュ・フローは前年同四半期連結累計期間比297億円減少の599億円の収入となった。これに対し、財務活動による純キャッシュの減少は436億円であることから、現金及び預金等四半期末残高は前連結会計年度末比189億円増加の5,874億円となった。

営業活動によるキャッシュ・フローは、支払手形及び買掛金の支払いの増加等により、前年同四半期連結累計期間比286億円減少の999億円の収入となった。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得の増加等により、前年同四半期連結累計期間比10億円増加の399億円の支出となった。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いの増加等により、前年同四半期連結累計期間比353億円減少の436億円の支出となった。

### (3) 対処すべき課題

中国における一段の景気減速や、一部新興国の景気停滞長期化に加え、日本においても個人消費や設備投資等の回復遅れが懸念されるものの、米国や欧州を中心に、総じて緩やかな景気拡大基調の継続が見込まれる。

かかる中、三菱電機グループは、「バランス経営」の3つの視点(「成長性」「収益性・効率性」「健全性」)に基づく持続的成長を追求する上で、「強い事業をより強く」「新たな強い事業の創出」「強い事業を核としたソリューション事業の強化」にそれぞれ取り組み、遅くとも2020年度までに「連結売上高5兆円以上」「営業利益率8%以上」を達成すべく、もう一段高いレベルの成長を目指す。これまでと同様に、継続的に達成すべき経営指標である「ROE 10%以上」「借入金比率15%以下」についても取り組んでいく。

グローバルでの更なる事業拡大に向けては、グローバル及びグループトータルでの最適な事業推進体制の構築・強化等を通じて、グローバル環境先進企業として「環境・エネルギー」「社会インフラシステム」関連事業の更なる展開に取り組み、欧米や中国における事業力を強化するとともに、インド・東南アジア・中南米等の成長市場における需要獲得に注力していく。

また、「質のよい」成長を実現する経営基盤強化策として、成長牽引事業への資源投入の強化や、事業の継続的な新陳代謝を通じた経営資源の最適な配分、「ものづくり力」の強化に資する開発・生産力の強化、開発設計段階からの品質作り込み、Just In Time改善活動をはじめとする生産性向上策、人材構造適正化及び最適配置、更なる財務体質の改善等に引き続き取り組むとともに、中長期視点で、総合的な事業効率性を向上させていく。

CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)については、「企業理念\*1」及び「7つの行動指針\*2」に基づき、三菱電機グループ一丸となった活動を推進していく。特に、企業経営の基本を成すものと位置づけてきた「倫理・遵法」については、コンプライアンス方針の徹底、内部統制の強化、教育を核とした更なるコンプライアンス活動の強化に引き続き取り組んでいく。併せて、「コーポレートガバナンス」については、コーポレートガバナンス・コードへの適切な対応を図るなど、継続的な向上策に取り組み、「環境」についても、低炭素社会や循環型社会の形成等に向けた取り組みを推進することにより、社会・顧客・株主等とのより高い信頼関係の確立に一層努めていく。

三菱電機グループは、上記施策を着実に展開することにより、更なる企業価値の向上を目指していく。

\*1 「企業理念」：三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する。

\*2 「7つの行動指針」：

- ・「信頼」：社会・顧客・株主・社員・取引先等との高い信頼関係を確立する。
- ・「品質」：最良の製品・サービス、最高の品質の提供を目指す。
- ・「技術」：研究開発・技術革新を推進し、新しいマーケットを開拓する。
- ・「貢献」：グローバル企業として、地域、社会の発展に貢献する。
- ・「遵法」：全ての企業行動において規範を遵守する。
- ・「環境」：自然を尊び、環境の保全と向上に努める。
- ・「発展」：適正な利益を確保し、企業発展の基盤を構築する。

### (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、467億円(製造費用へ計上した改良費等を含む)である。

なお、当第1四半期連結累計期間において、三菱電機グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

#### (5)資産及び負債・資本の状況分析

総資産残高は、前連結会計年度末比1,020億円減少の3兆9,573億円となった。現金及び預金等が189億円増加、棚卸資産が受注工事の進捗に伴い仕掛品を中心に596億円増加した一方、売掛債権の回収等により受取手形及び売掛金と長期営業債権の合計が1,940億円減少した。

負債の部は、借入金及び社債残高が前連結会計年度末比55億円減少の3,764億円となり、借入金比率は9.5%(前連結会計年度末比+0.1ポイント)となった。また、その他の流動負債が293億円増加した一方、支払手形及び買掛金が879億円減少、未払費用が387億円減少、退職給付引当金が株価上昇等に伴う年金資産の増加等により192億円減少したこと等から、負債残高は前連結会計年度末比1,350億円減少の1兆9,942億円となった。

資本の部は、配当金の支払い1386億円等による減少があったものの、当社株主に帰属する四半期純利益463億円の計上、株価上昇・為替円安等を背景としたその他の包括利益累計額の増加227億円等により、株主資本は前連結会計年度末比303億円増加の1兆8,725億円となり、株主資本比率は47.3%(前連結会計年度末比+1.9ポイント)となった。

#### (6)経営成績の分析

##### 売上高

当第1四半期連結累計期間の売上高は、9,884億円と前年同四半期連結累計期間比777億円の増収となった。これは、重電システム、産業メカトロニクス、情報通信システム、電子デバイス及び家庭電器のセグメントにおいて増収となったことによるものである。

##### 売上原価及び費用並びに営業利益

売上原価は、前年同四半期連結累計期間比634億円増加の6,910億円となり、売上高に対する比率は前年同四半期連結累計期間比1.0ポイント悪化の69.9%となった。販売費及び一般管理費・研究開発費は、前年同四半期連結累計期間比190億円増加の2,427億円となり、売上高に対する比率は24.6%(前年同四半期連結累計期間比変動なし)となった。

この結果、営業利益は産業メカトロニクス、情報通信システム及び電子デバイスは増益になったものの、重電システム、家庭電器及びその他のセグメントにおいて減益になったことにより、前年同四半期連結累計期間比46億円減少の546億円となった。

##### 営業外収益及び営業外費用

受取利息及び受取配当金と支払利息を合わせた金融費用は、前年同四半期連結累計期間比1億円の収支改善となり21億円の収入超過となった。

持分法による投資利益は、前年同四半期連結累計期間比14億円増加の50億円となった。

その他の収益は、前年同四半期連結累計期間比27億円減少の91億円となった。その他の費用は、前年同四半期連結累計期間比51億円減少の37億円となった。

##### 税金等調整前四半期純利益

税金等調整前四半期純利益は、前年同四半期連結累計期間比6億円減少の671億円(売上高比6.8%)となった。これは、前述のとおり営業利益が46億円減少したこと等によるものである。

##### 当社株主に帰属する四半期純利益

当社株主に帰属する四半期純利益は、税金等調整前四半期純利益の減少はあったものの、法人税等の減少により、前年同四半期連結累計期間比32億円増加の463億円(売上高比4.7%)となった。

#### (7)見積り及び重要な会計方針

当社の四半期連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則に基づいて作成している。当社は四半期連結財務諸表を作成するために、種々の仮定と見積りを行っており、それらの仮定と見積りは資産、負債、収益、費用の計上金額並びに偶発資産及び債務の開示金額に影響を及ぼし、実際の結果がそれらの見積りと異なることもあり得る。主要な会計方針の要約は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 (四半期連結財務諸表に対する注記)」に記載している。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000,000
計	8,000,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年8月7日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	2,147,201,551	2,147,201,551	国内：東京(市場第一部) 海外：ロンドン	単元株式数 1,000株
計	2,147,201,551	2,147,201,551		

(注) 上記普通株式は、議決権を有している。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年4月1日～ 平成27年6月30日		2,147,201		175,820		181,140

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。



(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 3,457,000		権利内容に何ら制限のない当社における標準となる株式 単元株式数1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,139,533,000	2,139,533	同上
単元未満株式	普通株式 4,211,551		同上
発行済株式総数	2,147,201,551		
総株主の議決権		2,139,533	

(注) 1 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式990株、三菱電機取引先持株会所有株式684株、相互保有自己名義株式として菱電商事(株)171株、大井電気(株)57株、三菱電機クレジット(株)771株、荘内三菱電機商品販売(株)125株、相互保有他人名義株式としてヒロポー電機(株)143株、菱陽電機(株)194株、(株)シンリョー379株、アイテック阪急阪神(株)354株、ミヨシ電子(株)246株、(株)証券保管振替機構名義の株式780株が含まれている。

2 「完全議決権株式(その他)」及び「議決権の数」欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式7,000株(議決権7個)が含まれている。

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有 株式数 (株)	他人名義 所有 株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済 株式総数に 対する 所有株式数 の割合(%)
三菱電機(株)	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	385,000	0	385,000	0.02
(株)カナデン	東京都港区新橋四丁目22番4号	880,000	0	880,000	0.04
菱電商事(株)	東京都豊島区東池袋三丁目15番15号	506,000	0	506,000	0.02
(株)岡部マイカ工業所	福岡県中間市中間一丁目8番7号	500,000	0	500,000	0.02
ヒロボー電機(株)	広島県府中市本山町530番214号	299,000	1,000	300,000	0.01
菱陽電機(株)	岡山県小田郡矢掛町小田6621番地	269,000	1,000	270,000	0.01
(株)シンリョー	兵庫県神戸市兵庫区小松通五丁目1番6号	215,000	0	215,000	0.01
アイテック阪急阪神(株)	大阪府大阪市福島区海老江一丁目1番31号	182,000	1,000	183,000	0.01
大井電気(株)	神奈川県横浜市港北区菊名七丁目3番16号	69,000	0	69,000	0.00
三菱電機クレジット(株)	東京都品川区大崎一丁目6番3号	63,000	0	63,000	0.00
ミヨシ電子(株)	広島県三次市東酒屋町306番地	60,000	1,000	61,000	0.00
荘内三菱電機 商品販売(株)	山形県鶴岡市上畑町5番4号	13,000	0	13,000	0.00
(株)北弘電社	北海道札幌市中央区 北十一条西二十三丁目2番10号	12,000	0	12,000	0.00
計		3,453,000	4,000	3,457,000	0.16

(注) ヒロボー電機(株)、菱陽電機(株)、アイテック阪急阪神(株)及びミヨシ電子(株)は、当社の取引先会社で構成されている三菱電機取引先持株会(東京都千代田区丸の内二丁目7番3号)に加入しており、それぞれ同持株会名義で当社株式を所有している。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はない。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)附則第4条(平成23年内閣府令第44号改正)の規定により、米国で一般に認められた企業会計処理の原則及び手続並びに用語、様式及び作成方法に基づいて作成している。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び当第1四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

		前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
区分	注記番号	金額(百万円)	金額(百万円)
資産の部			
流動資産			
1 現金及び預金等		568,517	587,488
2 受取手形及び売掛金		1,048,542	854,521
3 棚卸資産	(注記4)	705,420	765,118
4 前払費用及びその他の流動資産	(注記10 及び13)	310,966	326,054
流動資産計		2,633,445	2,533,181
長期債権及び投資			
1 長期営業債権	(注記12)	5,633	5,579
2 投資有価証券及びその他	(注記3、 10、12 及び13)	401,367	415,734
3 関連会社に対する投資	(注記5)	194,461	181,199
長期債権及び投資計		601,461	602,512
有形固定資産			
1 土地		109,708	109,616
2 建物及び構築物		749,926	756,007
3 機械装置及び その他の有形固定資産		1,844,255	1,858,335
4 建設仮勘定		48,328	54,554
計		2,752,217	2,778,512
5 減価償却累計額		2,045,742	2,066,748
有形固定資産計		706,475	711,764
その他の資産		118,070	109,903
資産合計		4,059,451	3,957,360

		前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
区分	注記番号	金額(百万円)	金額(百万円)
<b>負債の部</b>			
流動負債			
1 短期借入金	(注記6)	72,385	67,983
2 1年以内に期限の到来する社債及び長期借入金	(注記6及び12)	92,017	91,455
3 支払手形及び買掛金		807,289	719,291
4 未払費用		358,082	319,317
5 未払法人税等		29,624	15,368
6 その他の流動負債	(注記10及び13)	253,185	282,550
流動負債計		1,612,582	1,495,964
社債及び長期借入金	(注記6及び12)	217,592	217,027
退職給付引当金		182,282	163,002
その他の固定負債	(注記11)	116,828	118,255
負債合計		2,129,284	1,994,248
<b>資本の部</b>			
株主資本			
1 資本金	(注記7)	175,820	175,820
授権株式数			8,000,000,000株
発行済株式数			
前連結会計年度			2,147,201,551株
当第1四半期連結会計期間			2,147,201,551株
2 資本剰余金		211,155	211,155
3 利益準備金		64,058	64,249
4 その他の剰余金		1,267,438	1,274,922
5 その他の包括利益(損失)累計額	(注記3、8及び10)	124,064	146,769
6 自己株式		332	348
前連結会計年度			385,990株
当第1四半期連結会計期間			395,703株
株主資本計		1,842,203	1,872,567
非支配持分		87,964	90,545
資本合計		1,930,167	1,963,112
負債及び資本合計		4,059,451	3,957,360

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

		前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月 1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月 1日 至 平成27年6月30日)
区分	注記番号	金額(百万円)	金額(百万円)
売上高		910,648	988,440
売上原価及び費用			
1 売上原価		627,644	691,048
2 販売費及び一般管理費		182,711	199,440
3 研究開発費		40,974	43,320
		851,329	933,808
営業利益		59,319	54,632
営業外収益			
1 受取利息及び受取配当金		2,902	3,034
2 持分法による投資利益	(注記5)	3,595	5,049
3 その他の収益	(注記3、 8、10 及び14)	11,892	9,132
		18,389	17,215
営業外費用			
1 支払利息		953	926
2 その他の費用	(注記8、 10及び14)	8,896	3,744
		9,849	4,670
税金等調整前四半期純利益		67,859	67,177
法人税等			
1 当期税額		7,235	14,250
2 法人税等の期間配分調整額		15,020	3,248
		22,255	17,498
四半期純利益		45,604	49,679
非支配持分帰属損益	(注記7)	2,583	3,362
当社株主に帰属する 四半期純利益		43,021	46,317
基本的1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益	(注記9)	20円04銭	21円57銭
希薄化後1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益		-	-

【四半期連結包括利益計算書】

		前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月 1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月 1日 至 平成27年6月30日)
区分	注記番号	金額(百万円)	金額(百万円)
四半期純利益		45,604	49,679
その他の包括利益( 損失) - 税効果調整後	(注記7 及び8)		
1 為替換算調整額		12,136	5,531
2 年金負債調整額		1,238	10,872
3 有価証券未実現損益	(注記3)	6,138	6,807
4 デリバティブ未実現損益	(注記10)	48	37
合計		4,808	23,247
四半期包括利益		40,796	72,926
非支配持分帰属 四半期包括利益		1,759	3,904
当社株主に帰属する 四半期包括利益		39,037	69,022

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

区分	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月 1日 至 平成26年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月 1日 至 平成27年6月30日)	
	金額(百万円)		金額(百万円)	
営業活動によるキャッシュ・フロー				
1 四半期純利益		45,604		49,679
2 営業活動により増加した純キャッシュへの調整				
(1) 有形固定資産減価償却費	27,294		31,754	
(2) 固定資産の売却却損益	117		56	
(3) 法人税等の期間配分調整額	15,020		3,248	
(4) 有価証券等の売却損益	20		18	
(5) 有価証券等の評価損	515		80	
(6) 持分法による投資利益	3,595		5,049	
(7) 受取手形及び売掛金の減少	174,458		200,224	
(8) 棚卸資産の減少( 増加)	87,571		53,769	
(9) その他資産の減少( 増加)	38,232		17,461	
(10) 支払手形及び買掛金の増加( 減少)	41,085		84,802	
(11) 未払費用及び退職給付引当金の増加( 減少)	45,727		50,207	
(12) その他負債の増加	67,214		15,885	
(13) その他	14,618	83,006	10,299	50,240
営業活動により増加した純キャッシュ		128,610		99,919
投資活動によるキャッシュ・フロー				
1 有形固定資産の取得		36,177		39,169
2 固定資産売却収入		217		707
3 有価証券等の取得(取得現金控除後)		67		1,006
4 有価証券の売却収入等		2,313		1,281
5 その他		5,189		1,779
投資活動に投入した純キャッシュ		38,903		39,966
財務活動によるキャッシュ・フロー				
1 社債及び長期借入金による調達額		40,244		-
2 社債及び長期借入金の返済額		33,476		2,818
3 短期借入金の増加( 減少)		8,407		1,421
4 配当金の支払		23,615		38,642
5 自己株式の取得		6		16
6 その他		124		779
財務活動により増加( 減少)した純キャッシュ		8,322		43,676
為替変動によるキャッシュへの影響額		2,408		2,694
現金及び預金等純増加額		78,977		18,971
現金及び預金等期首残高		418,049		568,517
現金及び預金等四半期末残高		497,026		587,488

補足情報

四半期支払額		
利息	1,057	951
法人税等	16,497	32,755



## (四半期連結財務諸表に対する注記)

## 摘要

## 1 会計処理の原則及び手続並びに四半期連結財務諸表の表示方法

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)附則第4条(平成23年内閣府令第44号改正)の規定により、米国で一般に認められた企業会計処理の原則及び手続並びに用語、様式及び作成方法に基づいて作成している。

「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成26年3月28日内閣府令第22号)により四半期連結財務諸表規則が改正されたことに伴い、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表における従来の「非支配持分控除前四半期純利益」を「四半期純利益」に名称変更している。

当社は、昭和45年3月、欧州市場において米ドル建転換社債を発行するにあたり、投資銀行との預託契約に基づき、昭和44年度の連結会計年度以降、米国で一般に認められた企業会計処理の原則及び手続並びに用語、様式及び作成方法に基づく連結財務諸表(以下「米国内式連結財務諸表」という。)を作成し、社債権者等へ開示していた。これらの事由等を基に、旧証券取引法の規定により提出する連結財務諸表を米国内式連結財務諸表とすることを、旧連結財務諸表規則取扱要領第86に基づき大蔵大臣に申請し、昭和53年3月29日に承認を受けており、現在においても、連結会計年度及び四半期連結会計期間について、米国内式連結財務諸表を作成し、これらを開示している。なお、当社は、米国証券取引委員会に登録していない。

当社が採用する会計処理の原則及び手続並びに四半期連結財務諸表の表示方法のうち、我が国における会計処理の原則及び手続並びに表示方法と異なる主なものは次のとおりであり、金額的に重要なものについては我が国の基準に基づいた場合の税金等調整前四半期純利益に対する影響額を開示している。

## (1) 四半期連結損益計算書の表示

四半期連結損益計算書上、営業利益は、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費、研究開発費並びに固定資産減損損失を控除して算出しており、セグメント別営業利益の合計額と一致している。なお、事業再編費用等は営業外費用として表示している。

## (2) 固定資産の圧縮記帳

固定資産の圧縮記帳額は、その固定資産の取得原価に振戻している。減価償却資産については、圧縮記帳額振戻後の取得価額に対応した減価償却費を計上している。本会計処理による税金等調整前四半期純利益に対する影響額は前第1四半期連結累計期間61百万円(損失)、当第1四半期連結累計期間98百万円(損失)である。

## (3) 従業員の退職給付及び年金

数理計算上の差異は、期首時点の当該残高が回廊(予測給付債務と年金資産の公正価値のうちいずれか大きい方の10%)を超える部分について、従業員の平均残存勤務期間にわたって償却している。

我が国の退職給付に係る会計基準の変更時差異の一部を一時償却するために、退職給付信託設定に伴い計上した退職給付引当金繰入額を振戻している。

## (4) 棚卸資産に関連する前渡金及び前受金の表示

受注契約に基づく前受金は関連する棚卸資産から控除して表示し、また、棚卸資産に関連する前渡金は棚卸資産に組替表示している。

## (5) のれん及びその他の無形資産

のれん及び耐用年数が確定できないその他の無形資産は、償却をせず少なくとも1年に一度の減損テストをしている。

## 摘要

## 2 主要な会計方針の要約

以下、対象期間(年度)について特に断りのない限り、記載事項は前連結会計年度、当第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結会計期間において共通の事項である。

## (1) 連結の方針

当社の四半期連結財務諸表は、親会社及び子会社(重要でない子会社を除く。)の勘定に基づき作成し、すべての重要な連結会社相互間項目及び未実現損益は消去している。関連会社に対する投資額は重要性のないものを除き持分法により計算された価額をもって計上している。

なお、変動持分事業体に関しては、事業体に対して議決権以外の手段で財務上の持分を保有しているか否か、また、保有している場合主たる受益者としてその事業体を連結すべきか否かを判定している。

## (2) 経営活動の概況

当社グループは、家庭電器から人工衛星まで広範囲にわたる電気機械器具の開発、製造、販売を世界中で行っている。当社グループの事業は(1)重電システム、(2)産業メカトロニクス、(3)情報通信システム、(4)電子デバイス、(5)家庭電器、(6)その他から構成されている。

当第1四半期連結累計期間における各事業分野別の内部売上高消去前の構成比率は、重電システム21%、産業メカトロニクス29%、情報通信システム8%、電子デバイス6%、家庭電器22%、その他14%となっている。当社グループの事業活動は日本を中心に行われており、当第1四半期連結累計期間の売上高の向先地域別の構成比率は、日本51%、北米11%、アジア26%、欧州10%、その他2%となっている。

当社グループの生産活動は、親会社(23生産拠点)を中心とする日本の生産拠点及び米国、英国、タイ、マレーシア、中国等にある海外の生産拠点にて行われている。

## (3) 見積りの使用

当社は、四半期連結財務諸表を作成するために、種々の仮定と見積りを行っており、それらの仮定と見積りは資産、負債、収益、費用の計上金額並びに偶発資産及び債務の開示金額に影響を及ぼす。それらの仮定と見積りの影響を受ける重要項目には、債権、棚卸資産及び繰延税金資産に対する評価引当金、有形固定資産の帳簿価額、並びに従業員退職給付に係る資産、債務等が含まれる。実際の結果がそれらの見積りと異なることもあり得る。

## (4) 現金及び預金等

当社は、四半期連結キャッシュ・フロー計算書の資金概念として、取得後3カ月以内に満期となる流動性の高い短期金融資産を現金同等物とし、現金及び預金等を含めている。

## (5) 有価証券及び投資有価証券

当社は、負債証券及び持分証券投資を売買目的有価証券、売却可能有価証券または満期まで保有する有価証券に分類している。

売買目的有価証券は主に近い将来に売却することを目的として取得し、保有するものである。満期まで保有する有価証券は、会社がその満期まで保有する意思と能力を有するものである。売却可能有価証券は、売買目的有価証券または満期まで保有する有価証券以外のすべての有価証券である。

売買目的有価証券及び売却可能有価証券は公正価値により評価している。満期まで保有する有価証券は、額面を超過またはそれに満たない部分を償却または加算した償却原価法により評価している。売買目的有価証券から生じる未実現損益は連結損益計算書に含めており、売却可能有価証券から生じる未実現損益は、実現するまでは連結損益計算書には含めず、関連税効果控除後の金額をその他の包括利益(損失)累計額の一項目に含めて表示している。

有価証券の売却に伴う実現損益は、売却時点の個別保有銘柄の移動平均原価により決定している。

一時的でない公正価値の下落を伴う売却可能有価証券は、公正価値で評価し、評価後の金額を新たな簿価として設定している。持分証券について、下落が一時的ではないか否かを判断するにあたっては、市場価格が回復するまでその有価証券を保有する能力及び意思があるかどうか、及び有価証券の市場価格が原価まで回復することを示唆する証拠が反対の証拠より強いかどうかを考慮している。この評価の証拠には減損の発生している理由、発生期間、期末日以降の価値の変動、及び被投資会社の今後の見通しが含まれる。負債証券については、その負債証券を売却する意思があるか、時価が償却原価まで回復するまでに売却することを要求される可能性が50%より高いかを考慮して一時的であるかどうかを判断している。

上記以外の有価証券は、取得価額により評価している。一時的でない価値の下落が発生している場合には、上記売却可能有価証券の減損に用いられる基準と同様の基準を用いて損失を認識している。

## (6) 貸倒引当金

当社は、貸倒引当金を貸倒実績率及び貸倒懸念債権等特定の債権の評価に基づいて計上している。

## (7) 棚卸資産

当社は、仕掛品のうち注文製品の取得原価については個別法に、仕込製品の取得原価については総平均法により計上しており、いずれも低価法に基づいて評価している。また、長期請負契約に基づく前受金は仕掛品から控除している。原材料及び製品の取得原価は原則として総平均法により計上し、低価法に基づいて評価している。重電システムについては、一般的な慣行に従って1年以上の長期の工事も棚卸資産に含めている。

摘要

(8) 有形固定資産及び減価償却

当社は、有形固定資産を取得価額に基づいて計上しており、その減価償却は、一般的な資産区分、構造及び利用方法に従って見積られた耐用年数を用いて、主として定率法により償却しているが、一部の資産は定額法により償却している。

見積耐用年数は、建物及び構築物が最短3年、最長50年、また、機械装置及びその他の有形固定資産が最短2年、最長20年である。

(9) リース

当社は、キャピタル・リース取引について、リース取引開始時に最低リース料支払予定額の割引現在価値とリース資産の公正価値のいずれか低い金額にて固定資産計上し、当社が所有する固定資産に対する減価償却と同様の方法により償却している。

(10) 法人税等

当社は、資産及び負債の連結貸借対照表上の価額と各々の税務計算上の価額との差異、並びに繰越欠損金額及び繰越税額控除金額について繰延税金資産及び負債を認識している。この繰延税金資産及び負債は、これらの一時差異が解消すると予想される年度の課税所得に適用される税率により計算している。また、税率の変更による影響は当該改正制度年度の損益として認識している。評価引当金は、繰延税金資産の一部または全部が実現できないであろうと予想できる場合に計上し、繰延税金資産を正味実現可能価額まで減じている。

また、当社は、未認識税務ベネフィットの認識基準として認容される可能性が否認される可能性よりも高い場合に、その連結財務諸表への影響を認識している。

(11) 製品保証

当社は、製造上やその他の不具合に対し、製品の種類や販売地域及びその他の要因ごとに定められた期間または一定の使用条件に応じて製品保証を行っている。主に過去の無償工事実績及び補修費用に関する現状に基づく見積額を製品保証引当金に計上している。

(12) 退職給付制度

当社は、連結会計年度末において年金制度の積立状況(年金資産の公正価値と予測退職給付債務の差額)を連結貸借対照表で認識しており、対応する関連税効果控除後の調整金額をその他の包括利益(損失)累計額に計上している。その他の包括利益(損失)累計額への調整項目は、未認識過去勤務費用及び未認識年金数理計算差異であり、これらの金額は翌年度以降の退職給付費用として認識される。

(13) 収益の認識

当社は、所有権の移転を含む取引を裏付ける説得力のある証拠が存在すること、引渡しが行われていること、売価が確定しているまたは確定しうるものであること、かつ回収可能性が確からしいことすべての要件を満たす場合に収益の認識を行っている。家庭電器・半導体等の大量生産製品は、顧客が製品を受入れた時点で、重電・産業用機器等の検収を必要とする製品は、顧客が製品を受入れ、当社が当該製品に関して所定の性能が達成されていることを実証し、顧客による最終的な動作確認のうち重要となり得ないものを残すのみとなった時点で収益計上している。保守契約による収益は、契約期間にわたり保守を実行し、その費用が発生した時点で計上している。また、特定の長期請負契約については、工事進行基準を適用している。進捗度は、当期までの発生費用を工事完了までの見積総費用と比較することにより測定している。販売価格の確定している契約において予想される損失は、その金額が合理的に見積られる場合、連結損益計算書に計上する。特定の契約条件等に応じ判明した偶発事象に対し、合理的に見積られる引当を計上している。

また、製品、機器、据付及び保守等の組み合わせによる取引契約につき、構成要素が別個の会計単位として取り扱われる場合には、収益を各会計単位の公正価値に基づいて配分している。

(14) 研究開発費及び広告宣伝費

当社は、研究開発費及び広告宣伝費を発生時に費用処理している。

(15) 物流費用

当社は、物流費用を主として販売費及び一般管理費に計上している。

(16) 1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益

当社は、基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益を、当社株主に帰属する四半期純利益を期中における発行済株式数の加重平均値で除して算出している。希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益は、潜在的な利益の希薄化を加味したものであり、希薄化効果を有する証券が期首または期中発行の場合は発行時に株式へ転換され、かつ希薄化効果を有するストックオプションが権利行使され、当社の普通株式を自己株式として平均市場価格で購入するものと見做して算出している。

(17) 外貨建債権債務及び在外連結子会社等の財務諸表項目の換算

当社は、外貨建債権債務の円換算について期末日レートを用いている。その結果生ずる換算差額は当期の損益に計上している。在外連結子会社等の財務諸表の円換算について、外貨表示財務諸表のすべての資産及び負債は、期末日レートを、また、すべての収益及び費用は、期中の平均レートを用いている。その結果生ずる換算差額は「為替換算調整額」としてその他の包括利益(損失)累計額に計上している。

摘要

(18) 金融派生商品

当社は、すべての金融派生商品を資産または負債として連結貸借対照表に計上し、公正価値により評価している。公正価値ヘッジ目的の場合、ヘッジ対象及び金融派生商品の公正価値の変動額は当期の損益に計上し、キャッシュ・フローヘッジ目的の場合、金融派生商品のヘッジ有効部分の公正価値の変動額はヘッジ対象が損益に認識されるまで、その他の包括利益(損失)累計額に計上している。ヘッジの非有効部分については直ちに当期の損益に計上している。

また、金融派生商品の利用方法及び目的、金融派生商品とヘッジ対象の会計処理並びに金融派生商品とヘッジ対象が財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに与える影響に関して開示をしている。

(19) 証券化取引

当社は、売掛債権を譲渡する証券化取引について、譲渡債権に対する支配が買主に移るか否かを判定し、金融資産の譲渡として認識された売掛債権は、連結貸借対照表から除外している。売掛債権の譲渡に関する損益は、譲渡部分に配分された帳簿価額により算定している。なお、売掛債権の一部を譲渡する場合当社が引き続き保有する参加持分は、譲渡日における譲渡部分と引き続き保有する部分の公正価値に基づいて配分された帳簿価額により計上している。公正価値に関しては、貸倒損失を除いた将来予想キャッシュ・フローの現在価値に基づいて算定している。

(20) 長期性資産の減損

当社は、有形固定資産及び償却対象となる無形資産などの保有及び使用中の長期性資産について、当該資産の帳簿価額が回収できないという事象や状況の変化が生じた場合において、減損に関する検討をしている。当社が保有し、かつ使用している資産の回収可能性は、その帳簿価額を資産から生じると予測される割引前見積将来キャッシュ・フローと比較することにより判定している。当該資産の帳簿価額が見積将来キャッシュ・フローを上回っていた場合には、帳簿価額が公正価値を超過する金額について減損を認識している。売却以外の方法による処分予定の長期性資産について、処分が実施されるまでの期間中、保有及び使用中の資産として分類している。売却予定として分類された長期性資産について、連結貸借対照表上において他の長期性資産とは区別して表示しており、帳簿価額と売却費用控除後の公正価値のいずれか低い金額で評価し、以後償却していない。また売却予定として分類された処分グループの資産及び負債は、連結貸借対照表上においてそれぞれの適切な科目で別個に表示している。

(21) のれん及びその他の無形資産

当社は、企業買収時に取得法により会計処理しており、取得した識別可能な資産、引き継いだ負債、被買収企業の非支配持分及び取得したのれんを取得日における公正価値で認識、測定しており、企業結合の内容及び連結財務諸表に対する影響の評価を可能にする開示をしている。

のれん及び耐用年数が確定できないその他の無形資産は、償却をせず少なくとも1年に一度の減損テストをしている。また耐用年数が確定できるその他の無形資産は、その耐用年数で償却し、かつ減損テストをしている。

(22) 撤退または処分活動に関して発生する費用

当社は、撤退または処分活動に関する費用について、財務会計概念書第6号(SFAC6)「財務諸表の構成要素」における負債の定義を満たした場合に限り、負債を認識している。また、撤退または処分活動に関して発生する負債の当初の測定に公正価値を用いている。

(23) 保証

当社は、債務の保証または賠償責任契約を締結または変更した時点で、その公正価値により負債認識しており、当社が引き受けた保証について開示している。また、損失が発生する可能性が高いかどうかを識別するために、債務の保証または賠償責任の履行条件を継続して監視し、損失の見積りが可能な場合は損失を計上している。

(24) 資産除去債務

当社は、特定のリース債務を除き、取得、建設や開発の結果として生じる、もしくは通常の経営活動から生じる長期性資産の除去に関連する法的債務を資産除去債務としている。資産除去債務を負った期間に公正価値の合理的な見積りが可能であれば、公正価値でその債務を認識している。関連する資産除去費用は長期性資産の帳簿価額の一部として資産化し、その後、その資産の耐用年数にわたり費用化している。資産除去債務の当初測定後、時間の経過及び債務に内在する見積将来キャッシュ・フローの変化を反映させるために、債務を各期間終了時点で修正している。

(25) 組替再表示

当社は、当第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結会計期間の表示に合わせ過年度の表示を一部組替再表示している。

摘要

3 有価証券

投資有価証券及びその他に含まれる市場性のある有価証券は、売却可能有価証券によって構成されている。売却可能有価証券に関する前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間の期末日現在における持分証券及び負債証券の取得原価、総未実現利益及び損失、公正価値は次のとおりである。

(単位：百万円)

	平成27年3月31日				平成27年6月30日			
	取得原価	総未実現利益	総未実現損失	公正価値	取得原価	総未実現利益	総未実現損失	公正価値
売却可能有価証券								
持分証券	96,210	176,013	780	271,443	95,717	185,371	300	280,788
負債証券	500	21	2	519	500	21	2	519
	<u>96,710</u>	<u>176,034</u>	<u>782</u>	<u>271,962</u>	<u>96,217</u>	<u>185,392</u>	<u>302</u>	<u>281,307</u>

負債証券は、投資信託である。

前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間の期末日現在における市場性のない株式の取得原価は、14,545百万円及び14,473百万円である。

平成27年6月30日現在における売却可能有価証券の償還期限別情報は次のとおりである。

(単位：百万円)

	取得原価	公正価値
1～5年内償還	200	198
5年超償還	300	321
市場性のある株式	95,717	280,788
	<u>96,217</u>	<u>281,307</u>

平成27年6月30日現在における売却可能有価証券の総未実現損失及び公正価値を、未実現損失が継続的に生じている期間別にまとめると次のとおりである。

(単位：百万円)

	平成27年6月30日					
	12ヵ月未満		12ヵ月以上		合計	
	公正価値	総未実現損失	公正価値	総未実現損失	公正価値	総未実現損失
売却可能有価証券						
持分証券	1,507	215	254	85	1,761	300
負債証券	198	2	-	-	198	2
	<u>1,705</u>	<u>217</u>	<u>254</u>	<u>85</u>	<u>1,959</u>	<u>302</u>

未実現損失を含む投資の公正価値の下落については、市場価格が回復するまでその有価証券を保有する能力及び意思があるか否か等を考慮した結果、一時的であると判断しているため減損の認識は行っていない。

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間における売却可能有価証券の売却額及び実現利益は次のとおりである。

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間
売却額	63	-
実現利益	20	-

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間において、市場性のある持分証券の一時的でない市場価格の下落に伴う重要な減損はなかった。

摘要	前連結会計年度 (平成27年3月31日) (単位：百万円)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日) (単位：百万円)
4 棚卸資産 棚卸資産の内訳は次のとおりである。		
仕掛品	297,976	339,003
前受金	19,182	27,076
差引	278,794	311,927
原材料	116,027	122,309
製品	310,599	330,882
合計	705,420	765,118
5 関連会社に対する投資 前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間における持分法を適用している関連会社(東芝三菱電機産業システム(株)、上海三菱電機有限公司等)の要約財務諸表は次のとおりである。		
流動資産	1,363,332	1,353,627
有形固定資産	114,754	116,791
その他の資産	115,663	116,079
資産合計	1,593,749	1,586,497
流動負債	933,014	953,033
固定負債	139,057	138,194
負債合計	1,072,071	1,091,227
資本	521,678	495,270
負債・資本合計	1,593,749	1,586,497
売上高	1,255,026	275,009
関連会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	70,429	12,993
持分法を適用している関連会社のうち上場会社 9社に関する情報は次のとおりである。		
株式の持分法による評価額	41,121	41,634
株式の時価	55,640	59,695
6 短期借入金、社債及び長期借入金 短期借入金の内訳は次のとおりである。		
銀行等からの借入	72,385	67,983
平成27年6月30日現在、当社及び子会社の未使用コミットメントラインは81,500百万円であり、契約している金融機関から短期資金を調達することができる。		
社債及び長期借入金の内訳は次のとおりである。		
銀行等からの借入金		
無担保	245,765	245,764
社債		
無担保	40,000	40,000
キャピタル・リース債務	23,844	22,718
小計	309,609	308,482
1年以内に期限の到来する額	92,017	91,455
合計	217,592	217,027

摘要	前連結会計年度 (平成27年3月31日) (単位：百万円)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日) (単位：百万円)
<b>7 資本の部</b>		
前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間における連結貸借対照表の株主資本、非支配持分及び資本の変動は次のとおりである。		
	(単位：百万円)	
	<u>株主資本</u>	<u>非支配持分</u>
		<u>資本合計</u>
前第1四半期連結累計期間		
前第1四半期連結累計期間首残高	1,524,322	76,029
当社株主への配当金	23,615	-
非支配持分への配当金	-	2,040
非支配持分との資本取引及びその他	5,272	3,464
包括利益		
当社株主に帰属する四半期純利益	43,021	-
非支配持分に帰属する四半期純利益	-	2,583
その他の包括利益(損失) 税効果調整後		
為替換算調整額	11,294	842
年金負債調整額	1,238	-
有価証券未実現損益	6,114	24
デリバティブ未実現損益	42	6
四半期包括利益	<u>39,037</u>	<u>1,759</u>
前第1四半期連結累計期間期末残高	<u>1,545,016</u>	<u>72,284</u>
	(単位：百万円)	
	<u>株主資本</u>	<u>非支配持分</u>
		<u>資本合計</u>
当第1四半期連結累計期間		
当第1四半期連結累計期間首残高	1,842,203	87,964
当社株主への配当金	38,642	-
非支配持分への配当金	-	2,093
非支配持分との資本取引及びその他	16	770
包括利益		
当社株主に帰属する四半期純利益	46,317	-
非支配持分に帰属する四半期純利益	-	3,362
その他の包括利益(損失) 税効果調整後		
為替換算調整額	5,165	366
年金負債調整額	10,872	-
有価証券未実現損益	6,639	168
デリバティブ未実現損益	29	8
四半期包括利益	<u>69,022</u>	<u>3,904</u>
当第1四半期連結累計期間期末残高	<u>1,872,567</u>	<u>90,545</u>
前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間の期末日現在におけるその他の包括利益(損失)累計額の内訳は次のとおりである。		
為替換算調整額	102,959	108,124
年金負債調整額	98,108	87,236
有価証券未実現損益	119,252	125,891
デリバティブ未実現損益	39	10
その他の包括利益(損失)累計額	<u>124,064</u>	<u>146,769</u>

摘要

8 その他の包括利益

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間におけるその他の包括利益(損失)累計額の変動内訳は次のとおりである。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間				合計
	為替換算 調整額	年金負債 調整額	有価証券 未実現損益	デリバティブ 未実現損益	
期首残高	38,652	119,279	82,636	52	1,957
振替前その他の包括利益	11,294	159	6,127	35	5,361
その他の包括利益累計額 からの振替金額	-	1,397	13	7	1,377
当期純変動額	11,294	1,238	6,114	42	3,984
期末残高	27,358	118,041	88,750	94	2,027

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間				合計
	為替換算 調整額	年金負債 調整額	有価証券 未実現損益	デリバティブ 未実現損益	
期首残高	102,959	98,108	119,252	39	124,064
振替前その他の包括利益	5,165	10,841	6,639	13	22,658
その他の包括利益累計額 からの振替金額	-	31	-	16	47
当期純変動額	5,165	10,872	6,639	29	22,705
期末残高	108,124	87,236	125,891	10	146,769



摘要

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間におけるその他の包括利益(損失)累計額から振替えられた金額は次のとおりである。

(単位：百万円)

その他の包括利益 累計額の詳細	前第1四半期連結累計期間		連結損益計算書において 影響を受けた表示項目
	その他の包括利益 累計額からの振替金額		
年金負債調整額			
過去勤務費用の償却	3,036	(注)	
数理計算上の損失の償却	5,202	(注)	
	2,166	税金等調整前	
	769	法人税等	
	1,397	税金等調整後	
有価証券未実現損益			
売却による実現	20	その他の収益	
	20	税金等調整前	
	7	法人税等	
	13	税金等調整後	
デリバティブ未実現損益			
	10	その他の収益	
	10	税金等調整前	
	3	法人税等	
	7	税金等調整後	
振替金額合計	1,377	税金等調整後	

(注)退職給付費用に含めている。

(単位：百万円)

その他の包括利益 累計額の詳細	当第1四半期連結累計期間		連結損益計算書において 影響を受けた表示項目
	その他の包括利益 累計額からの振替金額		
年金負債調整額			
過去勤務費用の償却	3,016	(注)	
数理計算上の損失の償却	3,062	(注)	
	46	税金等調整前	
	15	法人税等	
	31	税金等調整後	
デリバティブ未実現損益			
	19	その他の費用	
	19	税金等調整前	
	3	法人税等	
	16	税金等調整後	
振替金額合計	47	税金等調整後	

(注)退職給付費用に含めている。

摘要

9 1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益

基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の算出における、当社株主に帰属する四半期純利益及び平均発行済普通株式数は次のとおりである。

なお、希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益は、潜在株式が存在しないため、記載していない。

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間
当社株主に帰属する四半期純利益	43,021	46,317
平均発行済普通株式数	2,146,850,161株	2,146,811,024株
1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益		
基本的当社株主に帰属する四半期純利益	20円04銭	21円57銭
希薄化後当社株主に帰属する四半期純利益	-	-

10 金融派生商品及びヘッジ活動

(1) 外国為替リスク及びヘッジ活動

当社及び子会社は事業活動を遂行する上で、外国為替相場及び金利相場の変動による市場リスクに晒されている。当社及びいくつかの子会社は、これらのリスクを回避する目的で先物為替予約、通貨スワップ及び金利スワップを利用しており、短期的な売買差益を獲得する目的や投機目的のためにデリバティブ取引を利用することはない。

(2) 契約金額、想定元本金額及び信用リスク

先物為替予約、通貨スワップ及び金利スワップには、取引先の契約不履行に係るリスク(信用リスク)があるが、当社及び子会社は、取引先の信用格付けが高いため、信用リスクはほとんどないと判断している。

(3) 公正価値ヘッジ

いくつかの子会社は、通貨の変動に対応するために通貨スワップを実施し、当取引を公正価値ヘッジと位置づけている。

(4) キャッシュ・フローヘッジ

当社及びいくつかの子会社は、主に予定取引に関して外国為替相場の変動による市場リスクをヘッジするために先物為替予約を実施し、また、社債及び長期借入金の一部を変動金利から固定金利へ変更するために金利スワップを実施している。当社及びいくつかの子会社は、これらの取引をキャッシュ・フローヘッジと位置づけている。

当社及びいくつかの子会社が利用する先物為替予約がキャッシュ・フローの変動をヘッジしている期間は、最長で27ヵ月間である。

当社は、今後12ヵ月間に外貨建債権の回収及び外貨建債務の支払い並びに変動金利付債務の利払いに応じて、金融派生商品に係る損失純額49百万円がその他の包括利益(損失)累計額から損益へ振替えられると考えている。

(5) ヘッジ指定されていないデリバティブ取引

当社及びいくつかの子会社は、ヘッジ商品として指定されていない先物為替予約、通貨スワップの一部及び金利スワップの一部について、外国為替相場及び金利変動の相場による市場リスクをヘッジすることを目的として利用しており、これらの商品の未実現損益の変動を損益に計上している。

前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間の期末日現在における先物為替予約及び通貨スワップの契約金額、金利スワップの想定元本金額は次のとおりである。

(単位：百万円)

	平成27年3月31日	平成27年6月30日
先物為替予約		
外貨売予約	240,279	258,999
外貨買予約	97,441	111,985
通貨スワップ	31,400	36,721
金利スワップ	2,000	2,000

摘要

前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間の期末日現在における先物為替予約、通貨スワップ及び金利スワップの見積公正価値の内訳は次のとおりである。

(単位：百万円)

		デリバティブ資産	
ヘッジ指定された 金融派生商品	連結貸借対照表 計上科目	見積公正価値	
		平成27年3月31日	平成27年6月30日
先物為替予約	前払費用及び その他の流動資産	95	77
		デリバティブ負債	
ヘッジ指定された 金融派生商品	連結貸借対照表 計上科目	見積公正価値	
		平成27年3月31日	平成27年6月30日
先物為替予約	その他の流動負債	61	99
		デリバティブ資産	
ヘッジ指定されて いない金融派生商品	連結貸借対照表 計上科目	見積公正価値	
		平成27年3月31日	平成27年6月30日
先物為替予約	前払費用及び その他の流動資産	5,499	2,929
通貨スワップ	前払費用及び その他の流動資産	126	433
金利スワップ	投資有価証券及び その他	21	22
合計		5,646	3,384
		デリバティブ負債	
ヘッジ指定されて いない金融派生商品	連結貸借対照表 計上科目	見積公正価値	
		平成27年3月31日	平成27年6月30日
先物為替予約	その他の流動負債	2,673	4,251
通貨スワップ	その他の流動負債	381	-
合計		3,054	4,251

摘要

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローヘッジに指定された先物為替予約の連結損益計算書への影響は次のとおりである。

(単位：百万円)

キャッシュ・フローヘッジに指定された金融派生商品	前第1四半期連結累計期間		
	その他の包括利益(損失)に計上された損益(ヘッジ有効部分)	その他の包括利益(損失)累計額から損益への振替額(ヘッジ有効部分)	
	計上金額	計上科目	計上金額
先物為替予約	58	その他の収益	10

  

キャッシュ・フローヘッジに指定された金融派生商品	当第1四半期連結累計期間		
	その他の包括利益(損失)に計上された損益(ヘッジ有効部分)	その他の包括利益(損失)累計額から損益への振替額(ヘッジ有効部分)	
	計上金額	計上科目	計上金額
先物為替予約	37	その他の費用	19

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間におけるヘッジ指定されていない先物為替予約、通貨スワップ及び金利スワップの連結損益計算書への影響は次のとおりである。

(単位：百万円)

ヘッジ指定されていない金融派生商品	前第1四半期連結累計期間	
	損益認識された損益の計上科目	計上金額
先物為替予約	その他の収益	2,506
通貨スワップ	その他の費用	393
金利スワップ	その他の費用	4
連結損益計算書への影響額		2,109

  

ヘッジ指定されていない金融派生商品	当第1四半期連結累計期間	
	損益認識された損益の計上科目	計上金額
先物為替予約	その他の費用	8,584
通貨スワップ	その他の収益	1,321
金利スワップ	その他の収益	1
連結損益計算書への影響額		7,262

摘要	前連結会計年度 (平成27年3月31日) (単位：百万円)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日) (単位：百万円)
<b>11 契約債務及び偶発債務</b> (1) 保証債務に関する割引前の最高支払額 銀行借入等に関する保証 従業員 関係会社等 その他 合計	3,191 260 6,203 9,654	2,966 273 6,565 9,804
<p>なお、従業員に係る債務保証は、主に住宅ローンに関するものであり、保証期間は1年から13年である。また、関係会社等に係る保証債務は、信用力を補完するものであり、保証期間は1年である。</p>	23,450 414	25,270 925
(2) 固定資産の購入に関する約定債務の額 (3) 割引手形  <p>前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間の期末日現在において、重要な信用リスクの集中はない。            当社及びいくつかの子会社は訴訟の被告となっているが、次の事項を除いて、当社の経営者は、法律専門家の助言を踏まえた上で、これらの訴訟によって賠償があるとしても、連結上の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えることはないと考えている。            当社は、平成19年1月、ガス絶縁開閉装置の欧州での販売に関するEU競争法違反容疑について欧州委員会からの決定通知を受領した。当社は、この決定内容に当社の事実認識と異なる点があることから欧州一般裁判所へ提訴したが、平成23年7月、欧州一般裁判所より、事実認識については欧州委員会の決定を支持する一方、当社への課徴金について企業間の算定基準の違いを理由に無効とする旨の判決を受領した。当社は、平成23年9月、この判決内容に当社の事実認識と異なる点があることから欧州司法裁判所へ上訴した。また、当社は、平成24年6月、欧州委員会から課徴金の算定方法を見直した決定通知を受領し、平成24年9月、課徴金算定方法の見直し(減額)を求めて、欧州一般裁判所へ提訴した。当社は、平成25年12月、欧州司法裁判所より、欧州委員会の事実認識を支持する内容の判決を受領し、現在、欧州一般裁判所へ提訴した訴訟が係属中である。            当社は、平成23年7月より、欧州における自動車用部品の販売について、欧州委員会から競争法関連の調査・質問を受け対応している。また、米国においては、自動車用部品の販売に関する独占禁止法違反に関連し、民事訴訟が提起されている。上記に関連し、一部の製品購入者と和解に合意し和解金を支払っている。            これらの競争法事案について、当第1四半期連結会計期間末において、欧州ガス絶縁開閉装置、米国自動車用部品並びに欧州自動車用部品に関して今後発生する可能性のある損失の見積額を競争法等関連費用引当金として、「その他の固定負債」に38,494百万円計上している。</p>	<b>12 金融商品の公正価値</b> 金融商品の公正価値の見積りについては、以下の方法により算定している。 (1) 現金及び預金等、受取手形及び売掛金、短期借入金、支払手形及び買掛金及びその他の流動負債は、短期間で決済されるため、それぞれの連結貸借対照表計上額は公正価値に近似している。 (2) 有価証券並びに投資有価証券及びその他の大部分は、市場価格に基づいて算定している。市場性のない有価証券については、適正な費用の範囲内で合理的な見積りを行うことはできない。 (3) 長期営業債権は、インカムアプローチに基づき市場金利を使用して算定した現在価値によっているため、レベル2に区分している。 (4) 社債は、マーケットアプローチに基づき公表価格を使用して公正価値を算定しているため、レベル2に区分しており、長期借入金は、インカムアプローチに基づき市場金利を使用して算定した現在価値によっているため、レベル2に区分している。リース関連の金融商品については、連結貸借対照表計上額が公正価値に近似しているため除いている。 (5) 金融派生商品は、主にヘッジ目的の先物為替予約、通貨スワップ及び金利スワップであるが、公正価値については、外国為替銀行の相場に基づいて算定している(見積公正価値については、注記10を参照)。 前連結会計年度及び当第1四半期連結会計期間の期末日現在における金融商品の見積公正価値は次のとおりである。 非金融派生商品(負債) 市場性のある有価証券 計上額 見積公正価値 長期営業債権 計上額 見積公正価値 社債及び長期借入金 計上額 (1年以内に期限の到来する額を含む) 見積公正価値	
<p>なお、公正価値の見積りについては、特定時点で利用可能な市場情報及び当該金融商品に関する情報に基づき算定している。これらの見積りは、その性質上主観的なものであり、不確実性や重要な判断を伴う事項を含むため、正確には算定できない。これらの前提が変動することにより見積りに重要な影響を及ぼす可能性がある。</p>	271,962 281,307 271,962 281,307 5,633 5,579 5,615 5,531 285,765 285,764 285,407 285,279	

摘要

13 公正価値の測定

当社は、公正価値を「市場参加者の間での通常の取引において、資産を売却するために受け取るであろう価格または負債を移転するために支払うであろう価格」と定義している。その上で公正価値測定のために使われるインプットを以下の3つに分類し、優先順位をつけている。

レベル1：同一の資産又は負債の活発な市場における公表価格(調整不要)のインプット

レベル2：直接的又は間接的に観察可能な、レベル1に含まれる公表価格以外のインプット

レベル3：観察不能なインプット

継続的に公正価値で測定される資産及び負債

当社が継続的に公正価値で測定している資産及び負債の平成27年3月31日及び平成27年6月30日現在における内訳は次のとおりである。なお、これらの資産及び負債については、それぞれ準拠している米国財務会計基準審議会の会計基準編纂書の要求に基づき公正価値を測定している。

	(単位：百万円)			
	平成27年3月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
持分証券				
市場性のある株式	271,443			271,443
負債証券				
投資信託		519		519
金融派生商品		5,741		5,741
負債				
金融派生商品		3,115		3,115
	平成27年6月30日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産				
持分証券				
市場性のある株式	280,788			280,788
負債証券				
投資信託		519		519
金融派生商品		3,461		3,461
負債				
金融派生商品		4,350		4,350

レベル1の持分証券は市場性のある株式であり、十分な取引量と頻繁な取引がある活発な市場における調整不要な市場価格で評価している。レベル2の負債証券は投資信託であり、マーケット・アプローチに基づき、活発でない市場における同一資産の市場価格により評価している。レベル2の金融派生商品は主に先物為替予約によるものであり、マーケット・アプローチに基づき、取引相手方または第三者から入手した相場価格を使用して評価している。

非継続的に公正価値で測定される資産及び負債

前第1四半期連結会計期間末及び当第1四半期連結会計期間末において、非継続的に公正価値で測定された重要な資産及び負債はない。

摘要

14 損益に関するその他の情報

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間
為替差益( 損失)	1,461	4,035

為替差益( 損失)は「営業外収益 - その他の収益」及び「営業外費用 - その他の費用」に計上している。

15 リース

当社及びいくつかの子会社は、主に機械装置及び器具備品等の借手となっている。  
 平成27年6月30日現在の解約不能オペレーティング・リースの最低リース料支払予定額は次のとおりである。

(単位：百万円)

	オペレーティング・リース
1年以内	6,072
1年超2年以内	4,469
2年超3年以内	2,771
3年超4年以内	1,754
4年超5年以内	1,243
5年超	2,894
最低リース料支払予定額合計	19,203

摘要

16 セグメント情報

以下に報告されているセグメント情報は、そのセグメントの財務情報が入手可能なもので、マネジメントによって経営資源の配分の決定及び業績の評価に定期的に使用されているものである。

開示にあたっては、製品の種類・性質、製造方法、販売市場等の類似性に基づき、重電システム、産業メカトロニクス、情報通信システム、電子デバイス、家庭電器及びその他の事業の6区分としている。

各事業の主な内容は次のとおりである。

重電システム	社会システム事業、電力・産業システム事業、ビルシステム事業
産業メカトロニクス	FAシステム事業、自動車機器事業
情報通信システム	通信システム事業、インフォメーションシステム事業、電子システム事業
電子デバイス	半導体・デバイス事業
家庭電器	リビング・デジタルメディア事業
その他	資材調達・物流・福利厚生等のサービス

セグメント間取引は、マネジメントが独立企業間価格であると考えている価格に基づいている。報告セグメントの営業損益の算出方法は、連結損益計算書における営業損益の算出方法と一致している。

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間における事業の種類別セグメント情報は次のとおりである。

(単位：百万円)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

	重電システム	産業メカトロニクス	情報通信システム	電子デバイス	家庭電器	その他	計	消去又は全社	連結
売上高									
外部顧客に対する売上高	221,371	292,046	85,399	44,347	230,504	36,981	910,648	-	910,648
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,862	3,281	7,141	6,888	4,213	131,077	154,462	154,462	-
計	223,233	295,327	92,540	51,235	234,717	168,058	1,065,110	154,462	910,648
営業利益(損失)	7,830	35,159	1,764	3,859	21,250	1,719	68,053	8,734	59,319

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

	重電システム	産業メカトロニクス	情報通信システム	電子デバイス	家庭電器	その他	計	消去又は全社	連結
売上高									
外部顧客に対する売上高	234,648	325,347	85,787	57,583	249,860	35,215	988,440	-	988,440
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,033	3,003	9,622	8,534	4,232	127,975	155,399	155,399	-
計	236,681	328,350	95,409	66,117	254,092	163,190	1,143,839	155,399	988,440
営業利益(損失)	6,666	42,867	1,755	12,332	16,244	903	63,925	9,293	54,632



摘要

【地域別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間における顧客の所在地別に分類した売上高は次のとおりである。

(単位：百万円)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

	日本	海外				計	連結合計
		北米	アジア	欧州	その他		
外部顧客に対する売上高	484,129	91,064	222,821	93,786	18,848	426,519	910,648
連結売上高に占める割合	53.2%	10.0%	24.4%	10.3%	2.1%	46.8%	100.0%

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

	日本	海外				計	連結合計
		北米	アジア	欧州	その他		
外部顧客に対する売上高	499,505	112,816	256,604	97,868	21,647	488,935	988,440
連結売上高に占める割合	50.5%	11.4%	26.0%	9.9%	2.2%	49.5%	100.0%

(注) 各区分に属する主な国または地域は次のとおりである。

- (1) 北米.....米国、カナダ、メキシコ
- (2) アジア.....中国、韓国、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、インド
- (3) 欧州.....イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、スペイン、イタリア、チェコ

摘要

当社は、米国財務会計基準審議会の会計基準編纂書280「セグメント報告」で要求される開示に加えて、以下の情報を補足情報として開示している。

【所在地別セグメント情報】

(単位：百万円)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

	日本	北米	アジア	欧州	その他	計	消去	連結
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	545,868	83,949	174,654	96,334	9,843	910,648	-	910,648
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	186,380	6,901	69,772	2,985	51	266,089	266,089	-
計	732,248	90,850	244,426	99,319	9,894	1,176,737	266,089	910,648
営業利益	39,143	2,252	22,424	3,582	238	67,639	8,320	59,319

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

	日本	北米	アジア	欧州	その他	計	消去	連結
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	558,125	105,371	211,552	101,164	12,228	988,440	-	988,440
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	200,246	6,784	77,999	3,134	48	288,211	288,211	-
計	758,371	112,155	289,551	104,298	12,276	1,276,651	288,211	988,440
営業利益	26,815	1,076	29,018	4,202	207	61,318	6,686	54,632

(注) 1 地域の区分は地理的な近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮し5区分としている。

2 各区分に属する主な国または地域は次のとおりである。

(1) 北米.....米国、カナダ、メキシコ

(2) アジア.....中国、韓国、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、インド

(3) 欧州.....イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、スペイン、イタリア、チェコ

17 後発事象

当四半期報告書の提出日である平成27年8月7日現在、当社の連結上の財政状態及び経営成績に重要な影響を与える後発事象は発生していない。

2【その他】

平成27年4月28日開催の取締役会において、平成27年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、剰余金の配当として、1株につき18円(総額38,642,680,098円)を支払うことを決議した。

その他該当事項なし。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年8月7日

三菱電機株式会社

執行役社長 柵 山 正 樹 殿

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 金子 寛人 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田中 賢二 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 永峯 輝一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱電機株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び四半期連結財務諸表に対する注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則第4条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表に対する注記1及び2参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表に対する注記1及び2参照）に準拠して、三菱電機株式会社及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。